

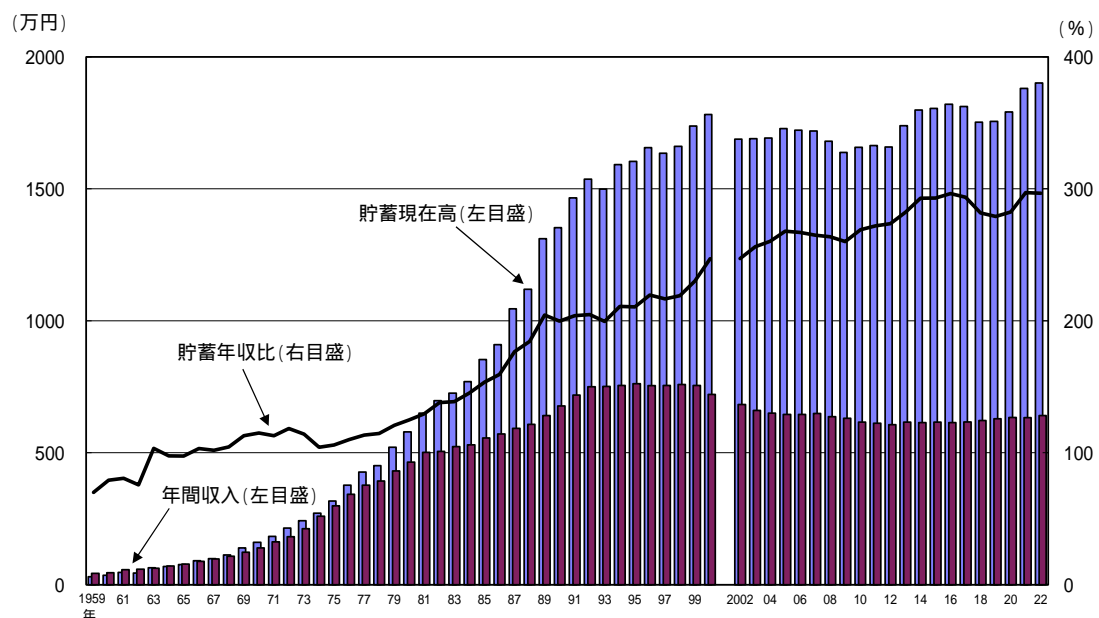
< 参考 1 - 1 > 長期時系列（二人以上の世帯の貯蓄の推移）

貯蓄現在高の年間収入に対する比は63年前の4.2倍

二人以上の世帯について1世帯当たり貯蓄現在高の最近の推移をみると、リーマンショック後、2010年、2011年と増加した後2012年は減少、2013年以降は4年連続で増加となった。2017年及び2018年は減少となっていたが、2019年、2020年、2021年及び2022年は4年連続で増加となった。2022年(1901万円)の水準は、63年前の1959年(30万円)の63.4倍となっている。また、貯蓄年収比(貯蓄現在高の年間収入に対する比)をみると、2022年は、296.6%と、1959年(70.0%)の4.2倍となっている。

(図、< 参考 1 - 2 > 表)

図 貯蓄現在高及び年間収入の推移（二人以上の世帯）



注) 2000年以前は、「貯蓄動向調査」結果による。数値については、次ページ参照 ⇨

貯蓄動向調査：家計調査の附帯調査として2000年まで毎年12月31日現在で実施。
 家計調査とは、調査時期、調査対象世帯数等が異なる。
 貯蓄・負債編としての調査は、1年の準備期間の後、2002年から実施